

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年12月08日

計画の名称	すくすくのびのび暮らしやすいまちづくり													
計画の期間	令和02年度～令和06年度（5年間）											重点配分対象の該当		
交付対象	尾張旭市													
計画の目標	大目標「すくすくのびのび暮らしやすいまちづくり」 目標1：活力と交流が生まれるまちづくり 目標2：安全・安心な子育てしやすいまちづくり 目標3：災害に強く住民に優しいまちづくり													
全体事業費（百万円）	合計（A + B + C + D）		1,803	A	1,803	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A + B + C + D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		（R2当初）	（R4末）	（R6末）
1	活力と交流が生まれるまちづくりを行い、事業地区内の居住人口を21,349人（R1）から21,420人（R6）に増加を図る。 地区内の居住人口（人） 居住人口（市定期調査：市民課）	21349人	人	21420人
2	子育てしやすいまちの形成を図り、公園が安全で快適に利用できると思う市民の割合を45.1%（H30）から49.6%（R6）に増加を図る。 公園が安全で快適に利用できると思う市民割合（%） 尾張旭市の公園が安全で快適に利用できることについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合（アンケート調査）	45%	%	50%
3	子育てしやすく、災害に強く住民に優しいまちの形成を図り、住みやすいまちだと思ふ市民の割合を73.1%（H30）から76.7%（R6）に増加を図る。 住みやすいまちが形成されていると思ふ市民割合（%） 尾張旭市を「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と回答した市民割合（アンケート調査）	73%	%	77%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	尾張旭市	直接	尾張旭市	-	-	尾張旭市活力拠点地区（ 都市再生整備計画）1-A-1	公園、土地区画整理事業等	尾張旭市						1,113	1.43	-
	令和４年度から都市構造再編集中支援事業へ移行。																		
											小計						1,113		
道路事業	A01-002	街路	一般	尾張旭市	間接	組合	区画	改築	尾張旭市北原山地区（（ 都）北原山４号線外）1-A-2	区画整理　A=53.2ha	尾張旭市						444	2.16	-
											小計						444		
市街地整備事業	A13-003	市街地	一般	尾張旭市	間接	組合	-	-	三郷駅前地区第一種市街 地再開発事業	商業、住宅、駐車場等　A＝１ .1ha	尾張旭市						246	1.29	-
	令和５年度から都市構造再編集中支援事業へ移行。																		
											小計						246		
											合計						1,803		

## 事後評価

### 事後評価の実施体制、実施時期

#### 事後評価の実施体制

令和6年10月25日から令和6年11月8日 庁内検討会  
令和6年12月2日から令和6年12月13日 事後評価原案の公表  
令和7年1月24日 評価委員会

#### 事後評価の実施時期

令和6年度

#### 公表の方法

市ホームページ

### 事業効果の発現状況

#### 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況

市全体で人口減少傾向が進行している中で、本市市街地の多くを占める本地区において人口増加に転じることは難しい状況にあると考えられる。事業前においては市全体の傾向よりも本地区の人口減少が顕著であったが、事業後は同程度の傾向になっている。また、全国の傾向よりも緩やかな減少となっているため、一定の事業効果はあったと判断できる。公園が安全で快適に利用できると思う市民割合は着実に増加しているが、目標値に至っていない状況にある。住みやすいまちが形成されていると思う市民割合は増加しており、目標値の達成が見込まれる。

#### 定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）

- ・地区内の公園について、定期的な愛護会活動が実施されている。
- ・上記愛護会活動やアダプトプログラムの活動により、人が集まることで地域の安全性・防犯性が向上した。

### 特記事項（今後の方針等）

- ・公園利用や維持・管理等への住民参加を維持・充実させる。
- ・人口の増加を目指すため、三郷駅周辺の都市機能のさらなる充実と魅力化が必要である。

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	21420人	北原山地区は人口が増加しており、都市基盤整備の効果が発揮されている。土地区画整理事業や公園整備等の住環境向上策により人口減少の抑制の効果が発揮されている。
	最 終 実績値	21140人	
2			
	最 終 目標値	50%	公園整備などにより、公園利用の満足度の向上が図られた。また、公園利用者が増えたことで、地域の安全性が向上した。土地区画整理地区内の公園が整備されていないため、満足度の低下が生じたと考えられる。
	最 終 実績値	49%	
3			
	最 終 目標値	77%	土地区画整理事業をはじめとする総合的な住環境整備事業の実施により、住みやすさに関する満足度の向上が図られている。また、都市基盤整備の進捗に伴い病院やスーパー等が増え、生活の利便性が向上したことが住みやすいまちの形成につながっている。
	最 終 実績値	79%	